

# 31 北高禅師墓碑



指 定 県 史 跡 昭和44年10月2日  
 所在地 岩 村 田  
 所有者 龍 雲 寺



北高禅師は羽前（山形県）の人で、北畠顕家の後裔（子孫）といわれる。12歳で父を失い、薙髮（頭髪をそり僧となる）して諱（死後にいう生前の実名）を全祝、後に北高と号した。

武田信玄は佐久郡の攻略を完了した永禄年中、先に兵火で荒廃した龍雲寺の再興をはかり、北高禅師を請じて中興開山とした。信玄は禅師に帰依すること篤く、元亀3年（1572）龍雲寺を信濃曹洞宗僧録に任じ、同年4月甲州・信州・上州3か国の僧を集めて千人江湖会（千人法幢）を行わせ、信濃領内曹洞宗会下のため法度を定めた。

勝頼もまた北高禅師の徳を慕い、信濃国曹洞宗僧録に任じ、天正2年（1574）祖父信虎の葬礼に請じて導師とし、龍雲寺の再興には小県郡番匠の軍役を免じて造営に当たらせた。

このように禅師は、武田親子の篤い信望をあつめて龍雲寺を再興し、同寺の規式を定め、曹洞宗の興隆をはかった高僧で、天正14年（1586）12月、80歳の高齢で寂した。

碑は無縫塔（六角または八角の台座の上に塔身が卵形をなした石塔）で、平面円形の基礎・蓮座・塔身の3部からなり、基礎は反花を省略、蓮座にも請花がない。塔身は頭部がわずかに突出し、頂部と身部の接点の肩が角張り、下に至るに従い細まり、正面下部に北高の2字が陰刻してある。